

令和7年（2025年）度行政評価シート

令和7年6月25日

| | |
|-----|------------|
| 評価者 | 環境部長 加藤 隆志 |
|-----|------------|

○ 施策の概要

| | | | | |
|------------|---|------------|-------|----------------------|
| 総合計画上の位置付け | 分野 | 3-(3) 生活環境 | 施策の方針 | 3-(3)-①3Rの推進・ごみの適正処理 |
| 目標とするまちの姿 | 「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向けて、市民、事業者、市等の連携・協働により、ごみの発生抑制を最優先とした3R（発生抑制、再使用、再生利用）の取組が進み、循環型社会が形成されています。 | | | |
| 主な取組 | <p>(1)ごみの発生を抑えた環境配慮型社会の構築 家庭や事業活動から排出されるごみの中で、特に食品ロスや使い捨てプラスチック製品に対する発生抑制を行うとともに、ライフスタイルの見直しや生産販売事業者への啓発を図り、市民、事業者、市等が協働して実施してきたごみの3R（発生抑制・再使用・再生利用）の取組を継続します。 また、「かまくらプラごみゼロ宣言」に基づき、事業者などと協働を図りながら、使い捨てプラスチック製品の利用廃止に向けた取組を推進します。</p> <p>(2)市民生活に対応した分別・収集体制の構築 家庭から排出されるごみの収集について、だれもが不自由なく安心してごみの排出ができるよう、多様な市民生活に対応した効率的かつ効果的な分別・収集体制の構築に取り組みます。</p> <p>(3)ごみの適切な処理体制の構築 市施設に集めたごみについて、ごみ処理に係る最新技術や民間活力の活用、広域連携、費用負担の軽減などを踏まえ、環境に配慮した安定的で効率的なごみ処理体制の構築に取り組みます。 なお、災害時には「鎌倉市災害廃棄物処理計画」に基づいた対応を行います。</p> | | | |

1. 前年度(評価対象年度)の当該施策の目標

| |
|---|
| <p>①名越稼働停止後の安定的なごみ処理体制を構築するため、両クリーンセンター周辺住民との合意形成を図り、中継施設整備の施工事業者を選定する。また、広域化処理に向けて分別品目の見直し、粗大ごみ資源化の処理体制構築等を進める。</p> <p>②戸別収集については、令和7年度以降の戸別収集開始に向けた体制整備として、収集事業者の選定をはじめ、効率的な収集方法確立のためのコンサルティング業務、コールセンター開設等の各種契約事務手続きを進める。また、戸別収集の事業開始に向けて、市民向けにリーフレット等各種媒体の配付や説明会の開催により周知啓発を図っていく。</p> |
|---|

2. 投入コスト

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 事業費 | 2,591,289 | 2,629,569 | 2,930,772 | 2,972,292 | 3,469,855 | |
| 人件費 | 770,645 | 714,017 | 706,877 | 696,312 | 734,934 | |
| 総事業費 | 3,361,934 | 3,343,586 | 3,637,649 | 3,668,604 | 4,204,789 | 0 |

3. 施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果

| 重点事業 | 整理番号 | 事業名 | 法定受託事務 | 事業費(千円) | 人件費(千円) | 総事業費(千円) | 事業評価 | 貢献度 | 最終評価 |
|------|-------|-------------------|--------|-----------|---------|-----------|-------|-----|-------|
| | 環境-01 | 環境運営事業 | | 41,929 | 29,168 | 71,097 | 現状維持 | B | 現状維持 |
| | 環境-03 | ごみ収集事業 | | 102,824 | 49,885 | 152,709 | 改善・変更 | A | 改善・変更 |
| | 環境-04 | ごみ資源化事業 | | 594,215 | 43,466 | 637,681 | 改善・変更 | A | 改善・変更 |
| | 環境-05 | 3R推進事業 | | 49,176 | 40,842 | 90,018 | 改善・変更 | B | 改善・変更 |
| 重 | 環境-06 | 廃棄物処理施策推進事業 | | 572,936 | 11,798 | 584,734 | 拡充 | A | 拡充 |
| 重 | 環境-07 | 戸別収集事業 | | 21,031 | 42,873 | 63,904 | 拡充 | B | 拡充 |
| | 環境-09 | 廃棄物処理施設のマネジメント事業 | | 0 | 951 | 951 | 現状維持 | A | 現状維持 |
| 重 | 環境-10 | 廃棄物処理施策推進事業 | | 39,133 | 24,743 | 63,876 | 拡充 | A | 拡充 |
| | 環境-11 | 最終処分事業 | | 120,951 | 2,360 | 123,311 | 縮小 | A | 縮小 |
| | 環境-12 | ごみ処理広域化計画推進事業 | | 29 | 12,912 | 12,941 | 現状維持 | A | 現状維持 |
| | 環境-21 | ごみ収集事業 | | 1,010,231 | 44,998 | 1,055,229 | 改善・変更 | A | 改善・変更 |
| | 環境-22 | 名越クリーンセンター管理運営事業 | | 377,684 | 19,663 | 397,347 | 縮小 | A | 縮小 |
| | 環境-23 | 今泉クリーンセンター管理運営事業 | | 185,976 | 71,455 | 257,431 | 現状維持 | A | 現状維持 |
| | 環境-24 | 名越クリーンセンター収集事業 | | 2,891 | 68,175 | 71,066 | 休止・廃止 | B | 休止・廃止 |
| | 環境-25 | 今泉クリーンセンター収集事業 | | 15,129 | 247,915 | 263,044 | 改善・変更 | B | 改善・変更 |
| | 環境-26 | 笛田リサイクルセンター管理運営事業 | | 233,803 | 19,797 | 253,600 | 現状維持 | B | 現状維持 |
| 重 | 環境-29 | 廃棄物処理施策推進事業 | | 101,917 | 3,933 | 105,850 | 休止・廃止 | A | 休止・廃止 |

4. 評価対象年度の主な実施内容

①名越クリーンセンター(焼却施設)は、令和7年3月末日をもって稼働を停止し、令和7年度以降のごみ処理広域化への移行に向け、鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画に基づく逗子市と可燃ごみの処理に係る事務委託の締結、粗大ごみの処理体制を構築した。また、名越クリーンセンター跡地にごみ中継施設を整備するに当たり、名越及び今泉クリーンセンター周辺自治町内会と組織する協議会において、それぞれ協定を締結するとともに、令和6年12月に施工事業者との契約を締結した。

ごみ収集事業において、名越中継施設工事期間中は今泉クリーンセンター中継機能を継続し、市内で排出される燃やすごみの全量の中継処理することとなることから、施設周辺の環境負荷を抑えるため必要な収集体制の構築を行った。また、今泉クリーンセンター周辺町内会と市で構成する協議会において、令和6年度は、4回開催し第68回鎌倉市今泉クリーンセンター連絡協議会では中継施設の継続使用に係る協定書の合意を図り令和7年1月10日付けで協定書を締結し、令和7年1月13日から市内全域の家庭系ごみの受け入れを開始した。

②戸別収集について、本市の戸別収集における実施計画を策定するとともに収集事業者の選定、効率的な収集方法確立のためのコンサルティング業務、コールセンター開設等の各種契約事務手続きを進めた。また、戸別収集の事業開始に向けて、市民向けにリーフレット等各種媒体の配付や説明会の開催により周知啓発を図った。

③2市1町広域化処理に向けた一般廃棄物の分別品目の見直しを行うとともに、粗大ごみの資源化処理体制を新たに構築し、市民へ排出方法等の周知を図った。また、全国においてリチウムイオン電池などの小型充電式電池の誤った排出方法による火災事故が頻発していることから、これらを行政収集することとし、安全安心で安定的な資源化処理体制を構築した。

※実施できなかった事業とその理由

なし

5. 成果指標

| 成果指標① | | 市内から排出されるごみの総排出量 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標) | | | | | | 出典 | 神奈川県一般廃棄物処理実績報告 | |
|--------|--------|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------------|--|
| 平成30年度 | 年次 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 単位 | 備考 | |
| 初期値 | 58,623 | 目標値 | 59,771 | 57,556 | 56,837 | 56,388 | 55,935 | 55,488 | トン | R3 ごみ処理基本計画の見直しに伴い目標値を修正 R6実績値 神奈川県が取りまとめてR8.3に確定 |
| | | 実績値 | 60,471 | 58,593 | 56,779 | 53,894 | 未定 | | | |
| | | 達成率 | 98.8% | 98.2% | 100.1% | 104.6% | — | | % | |
| 成果指標② | | 市内のごみ焼却量 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標) | | | | | | 出典 | 神奈川県一般廃棄物処理実績報告 | |
| 平成30年度 | 年次 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 単位 | 備考 | |
| 初期値 | 29,992 | 目標値 | 29,639 | 27,564 | 26,758 | 26,316 | 24,885 | 15,522 | トン | R3 ごみ処理基本計画の見直しに伴い目標値を修正 |
| | | 実績値 | 29,994 | 28,483 | 22,659 | 22,484 | 21,541 | | | |
| | | 達成率 | 98.8% | 96.8% | 118.1% | 117.0% | 115.7% | | % | |
| 成果指標③ | | 市民1人1日あたりのごみの排出量 | | | | | | 出典 | 神奈川県一般廃棄物処理実績報告 | |
| 平成30年度 | 年次 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 単位 | 備考 | |
| 初期値 | 931.9 | 目標値 | 946.9 | 927.6 | 920.1 | 916.8 | 913.5 | 910.2 | グラム | R3 ごみ処理基本計画の見直しに伴い目標値を修正 R6実績値 神奈川県が取りまとめてR8.3に確定 |
| | | 実績値 | 959.0 | 929.0 | 902.0 | 858.0 | 未定 | | | |
| | | 達成率 | 98.7% | 99.8% | 102.0% | 106.9% | — | | % | |

| 成果指標④ | | リサイクル率 (鎌倉市SDGs未来都市計画 指標) | | | | | | 出典 | 一般廃棄物処理事業実態調査 | |
|-------|--------|------------------------------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|---|--|
| 初期待 | 平成30年度 | 年次 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 単位 | 備考 |
| 初期値 | 52.5 | 目標値 | 53.0 | 53.0 | 54.8 | 55.0 | 55.3 | 71.7 | % | R6実績値 環境省が取りまとめ てR8.1頃に確定 |
| | | 実績値 | 52.7 | 52.6 | 56.3 | 58.5 | 未定 | | | |
| | | 達成率 | 99.4% | 99.2% | 102.7% | 106.4% | — | | % | |
| 成果指標⑤ | | マイバッグを利用している市民の割合 | | | | | | 出典 | 市民アンケート調査 | |
| 初期待 | 令和2年1月 | 年次 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 単位 | 備考 |
| 初期値 | 63.4 | 目標値 | 70.0 | 72.0 | 74.0 | 76.0 | 78.0 | 80.0 | % | |
| | | 実績値 | 未実施 | 92.0 | 91.3 | 92.4 | 92.2 | | | |
| | | 達成率 | — | 127.8% | 123.4% | 121.6% | 118.2% | | % | |
| 成果指標⑥ | | マイボトルを利用している市民の割合 | | | | | | 出典 | 市民アンケート調査 | |
| 初期待 | 令和2年1月 | 年次 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 単位 | 備考 |
| 初期値 | 50.9 | 目標値 | 55.0 | 58.0 | 61.0 | 64.0 | 67.0 | 70.0 | % | |
| | | 実績値 | 未実施 | 60.2 | 59.0 | 58.3 | 63.7 | | | |
| | | 達成率 | — | 103.8% | 96.7% | 91.1% | 95.1% | | % | |
| 成果指標⑦ | | 燃やすごみのうち未開封の食品の量 | | | | | | 出典 | 神奈川県一般廃棄物処理実績報告 及び家庭系燃やすごみ組成調査結 果報告より算出 | |
| 初期待 | 平成30年度 | 年次 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 単位 | 備考 |
| 初期値 | 415 | 目標値 | 376 | 337 | 298 | 259 | 220 | 179 | トン | 令和2年度は予算 見直しに伴い未実 施 R6実績値 神奈川県が取りまと めてR8.3に確定 |
| | | 実績値 | 未実施 | 592 | 600 | 713 | 未定 | | | |
| | | 達成率 | — | 56.9% | 48.7% | 36.3% | — | | % | |

6. 「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

市民の協力はもちろんのこと、事業系ごみ資源化等の施策もあり、ごみの排出量及び焼却量は年々減少傾向にある。

ごみのリサイクル率については、事業系ごみを資源化することにより、目標値を達成することができ、人口10万人以上50万人未満の市において6年連続全国1位となった。

マイバッグの利用については、日頃から啓発に努めており、レジ袋有料化後、環境意識の高まりも相まって定着してきたことが伺える。

マイボトルの利用については、給水スポットの普及を中心とした啓発を実施したが、目標を達成できなかった。民間企業が実施したアンケート調査を見るとマイボトルを使用している理由として主に経済性(節約になる)と環境配慮が挙げられていた。反対に、マイボトルを持たない理由として通勤時の荷物が増えることへのストレス、持ち歩きが面倒、洗浄の手間等が挙げられ、マイボトルを購入しても使用していない人が一定数いることも挙げられていた。手間をかけてまで環境配慮の行動を取る人はそう多くはなく、消費段階へのアプローチだけでは限界があることが伺えるが、事業者や市民団体と連携し、利用率の向上に努めていく。

未開封の食品廃棄の削減については、フードドライブの実施や啓発を行っている。令和6年度の実績値は未定(成果目標①を基に可燃ごみ発生量が確定し、組成調査による組成率を乗じて算出するため)であるが、令和5年度の達成状況から見ると令和6年度も達成は厳しい状況であると見込んでいる。フードドライブは加工食品について実施しており、厨芥類の発生抑制に貢献していると考えられるが、組成調査の結果では、食べ残し等の割合が最も高いことから、この点へのアプローチが必要である。

7. 主な実施内容と施策の達成状況の分析を踏まえた評価

※主な実施内容と目標とするまちの姿の関係(達成状況とその理由)

「施策の方針にひもづく事務事業とその評価結果」における貢献度の分析

| |
|---|
| <p>名越グリーンセンターの稼働停止に向けた安定的な処理体制の構築は、循環型社会を形成するための土台となる施策である。</p> <p>施設周辺住民との信頼関係を築きながら施設整備の準備を進め、併せて循環型社会の形成と施設周辺の環境負荷低減のためできる限り搬入ごみを減らす必要があることから、市民や事業者と市が協働で、一人ひとりのライフスタイルの見直しによるごみの減量を促す取組を実施した。具体的には市民や事業者と連携したフードドライブやプラごみゼロウィークの開催、ウォーターサーバーの設置拡充、また、関東圏では初となる縦型乾式メタン発酵方式を活用した事業系燃やすごみの全量資源化の実現により貢献した。併せて、事業系ごみ専任チームによる排出事業者への啓発訪問を通じ、事業系ごみの適正処理及び資源化を促した。</p> <p>また、資源化を確実に実施するためには、市民の分別協力と安定的な収集・運搬が基本となる。市内約5000か所の分別収集の実施、自治町内会への説明会、LINEによる分別案内は、分別についての理解促進に貢献している。</p> <p>令和6年度も高いリサイクル率を維持する見込み(R6実績値は、環境省が取りまとめてR8.1頃に確定)であるものの、排出ごみ総量の削減(発生抑制)に引き続き取り組む必要がある。本市の特徴として、事業系ごみの多さ(令和5年度県内19市中第2位)、容器包装や新聞雑誌類、布類など資源物の多さが挙げられる。周知啓発は継続して行う必要があり、市民や事業者と連携して更なる工夫を図っていく。</p> <p>ごみ収集事業については、名越中継施設工事期間中に今泉グリーンセンター中継機能を継続し、市内で排出される燃やすごみの全量の中継処理することとなることから、施設周辺の環境負荷を抑えるため必要な収集体制の構築を行ったことにより、安定的なごみ処理の運営に貢献している。</p> <p>環境に配慮した安定的なごみ処理のためには、収集運搬から資源化までを円滑に行う必要があり、双方とも民間委託により実施できたことからごみ収集事業及びごみ資源化事業をAとした。</p> <p>令和7年度から一部地区で戸別収集を実施するにあたり、収集事業者の選定をはじめ、効率的な収集方法確立のためのコンサルティング業務、コールセンター開設、市民への周知啓発等、当初予定していた各種業務を滞りなく実施したことから戸別収集事業をBとした。</p> <p>ごみ処理広域化及び名越中継施設の建設は、今後の安定的なごみ処理体制の根幹を担う施策である。逗子市との可燃ごみの処理に係る事務委託の締結、施工事業者の選定及び各センター周辺自治町内会との協定締結を行ったことから、廃棄物処理施策推進事業及びごみ処理広域化推進事業をAとした。</p> |
|---|

8. 今後の方向性

| |
|---|
| <p>更なるごみの減量・資源化策として、紙おむつの資源化策の検討を行っていく。市民や事業者と連携した3Rの取組は継続して実施することとし、好事例を研究して内容を工夫していく。</p> <p>ごみ収集事業については、引き続き収集体制の見直しを検討することにより安定的なごみ処理の運営を維持する。また、燃やすごみを停滞することなく他市の処理施設へ中継するため、施設の機械設備の定期的な点検及び計画的な修繕を実施し、維持管理を徹底する。</p> <p>戸別収集については、先行地区での実施と並行して、令和8年度全市域での燃やすごみ戸別収集の開始に向けた各種業務を進める。具体的には、収集事業者による収集運搬シミュレーションの実施、戸建て住宅の排出場所確認、集合住宅の排出場所確認及び集合住宅への補助金受付、説明会の実施を含めた各種周知に係る業務等を実施する。また、コンサルティング業務委託、先行地区に居住する市民向けアンケート等の実施により、戸別収集品目の拡大を含めて、本市の最適な戸別収集のあり方について検討を進める。</p> <p>ごみ処理広域化に移行後も安定的なごみ処理を継続するため、施工事業者との連携し、名越及び今泉グリーンセンター周辺自治町内会と組織する協議会との協定内容を遵守するよう努めるとともに、丁寧な説明を行い住民理解を得ながら、名越中継施設整備を着実に推進する。</p> |
|---|

9. 今年度(評価年度)の目標

更なるごみの減量・資源化策として、まずは紙おむつの実証実験結果から見えてきた課題解決や体制構築等の検討を行うとともに、市内の不燃ごみ等の積替え所移転に向けた調査及び施設整備等の検討を進める。

ごみ収集事業については、引き続き収集体制の見直しを検討することにより安定的なごみ処理の運営を維持する。

戸別収集については、先行地区で戸別収集を実施したことで見えてくる課題を着実に改善し、全市域での戸別収集を確実に実施できる収集体制を確立する。併せて戸建て住宅及び集合住宅の排出場所の確認や市民周知を積極的に行うことで、スムーズな戸別収集の全市実施に繋げていく。

ごみ処理広域化に移行後も安定的なごみ処理を継続するため、施工事業者と連携し、名越及び今泉クリーンセンター周辺自治町内会と組織する協議会との協定内容を遵守するよう努めるとともに、丁寧な説明を行い住民理解を得ながら、名越中継施設整備を着実に推進する。